



3月からの新プログラム

プラネタリウム

南十字星にあいにいこう

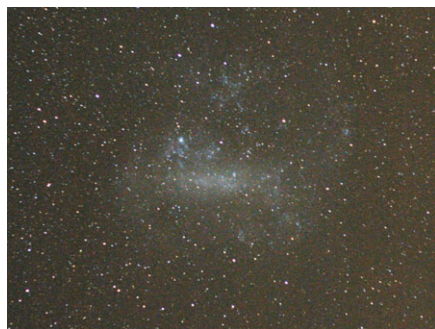
3月からのプラネタリウムの一般投影では、「南十字星にあいにいこう」というタイトルで、普段大阪では見ることができない南十字星を中心に、南天の星空を取り上げます。

北の空には北極星があり、私たちは北極星を見つけることで、北の方角を知ることができます。しかし、北極星が見えるのは北半球だけ

でのことで、南半球では北極星は見ることができません。代わりに、南極星が見えれば、南の方角を知ることができるのですが、残念なことに、天の南極に近いところにある星は5等星で、北極星のように簡単にそれとわかる星ではありません。

そこで、天の南極を見つける方法がいくつかあるのですが、そのうちの 하나가南十字星を使う方法です。大航海時代に世界の海を冒険したヨーロッパ人は、南半球でそれまで知らなかった星空に出会い、そこに新しい星座を作りました。GPS等が無かった時代、大海原を航海する者にとって、星を見て自分の位置と進路を確認することは大切なことでした。北極星が見えない場所で、南の方角を教えてくれる十字架の形をした星は、キリスト教徒にとって特別に大切な星であったことでしょう。

また、南半球では、南十字星以外にも、大阪では見ることができない珍しい天体が見られます。大マゼラン雲、小マゼラン雲は、世界一周の航海に挑んだ冒険家マゼランの名前のついた天体です。夜空にぼっと浮かぶ光の雲のような天体は、独特のもので、また南十字星に隣接して広がる暗黒星雲「石炭袋」も南半球ならではの見どころです。



大マゼラン雲

企画・制作：飯山 青海(科学館学芸員)

サイエンスショー

ひみつの光で大実験

今月から始まった新サイエンスショーは、目に見えない光の実験です。光というと…明るい！まぶしい！キラキラしている！など目に見えるものばかりが浮かんでいますが、目には見えない光も実は身近なところで使われています。

その一つが赤外線です。リモコンなどで使われています。写真1のようにリモコンのスイッチを押して、カメラを通して覗いてみましょう。目では何も見えないのに、カメラを通すと…何やらリモコンが光っています。これが赤外線なのです。カメラは私たちの目には見えない赤外線をも感じることができるので、カメラでリモコンを見ると、光っているように見えたのです。ただ、写真の下のカメラのように一部のスマートフォンのカメラには映らないようです。ぜひ皆さんもご自身のカメラで試してみてください。

もう一つの見えない光は、紫外線です。紫外線というと、日焼けなど気になる話題も多いですが、インテリアとして売られているブラックライトを使うと、ちょっと楽しい遊びもできます。写真2は、ブラックライトを白衣と蛍光ペンに当ててみたものです。白衣は青白く、蛍光ペンは鮮やかに光っていますね。このほかにも、身近なものでこんなものが光るの？というものがたくさんあります。どんなものが出てくるかを楽しみにしておいてください。

この実験ショーでは、ご家庭でも真似したくなるような実験をたくさん用意しています。ショーを見たら「おしまい」ではなく、実際にやってみて、身近な見えない光を感じていただければ、嬉しい限りです。

皆様のご来場お待ちしております。

企画・制作：木村 友美(科学デモンストレーター)



写真1
リモコンからの赤外線を直接目で見ても、何も見えませんが、カメラを通して見ると光っているのが見えます(赤丸部分)。



写真2
白衣と蛍光ペンにブラックライトを当ててみると、鮮やかに光ります。